

## 1 ご挨拶

日本サーバス中国四国支部長 T.M.

戦後 80 年という節目の年、2025 年を迎えました。昨年末には日本被団協がノーベル平和賞を受賞し、広島のみならず、中国四国地方、そして日本中が湧きました。しかしその一方で、戦争や民族紛争の終わりは相変わらず見えず、同時に少なからぬ国の中で移民排斥を訴える人々の声が大きくなっていることも事実です。

「ひとつ屋根の下での国際交流」の合言葉の下、日本サーバスの一員として活動することは、本当に小さな小さなことですが、世界の平和構築につながる一歩であると考えています。近年はコロナ禍もあり、サーバス活動は停滞気味でしたが、昨年は中国四国支部に若い3名の新会員を迎えることができました。そして、ホストをするだけでなく、久しぶりにサーバス旅行を楽しんだ会員もいました。少しずつ、従来のサーバス活動が戻ってきているのを嬉しく思います。SNS やオンラインでの新しいつながりが可能な時代になりましたが、顔と顔を合わせて語らうことで、初めて深い心の交流ができるはずで

す。右も左もわからず、昨年4月に日本サーバス中国四国支部長になりましたが、支部役員および会員の皆様、そして本部役員の方々に支えられてここまでやってこれることができました。心から感謝しています。

無理のない範囲で、あくまで「楽しく」をモットーに 2025 年もやっていきますので、引き続きよろしく願いいたします。



広島県大竹市 下瀬美術館

## 本号の内容

- 1 ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・ [P1 T.M.](#)
- 2 新会員紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・ [P2 T.M.](#)
- 3 ドイツ親善の旅 ・・・・・・・・・・・・・・・・ [P3 I.H.](#)
- 4 「ケニア・ジンバブエ理解講座」報告・・ [P4 U.S.](#)
- 5 トラベラー会員活動報告・・・・・・・・・・ [P5 Y.M.](#)
- 6 トラベラー受け入れ報告・・・・・・・・・・ [P8 S.Y.](#) (2024年5月) ・ [H.T.](#) (2024年9月)
- 7 トラベラー受け入れ報告・・・・・・・・・・ [P9 K.T.](#) (2024年9月)
- 7 第3回支部総会報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・ [P10 T.M. ・ U.S.](#)
- 8 編集後記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ [P11 N.M.](#)

## 2 新会員紹介

支部長 T.M.

中国四国支部は、今年、3名の新会員を迎えることができました。大変うれしく思います。これを機会にサーバス活動がもっと広がっていくことを期待します。ご入会順に簡単にご紹介させていただきます。



### Y.M.さん

愛媛県伊予市にお住まいです。伊勢神宮を旅行された際に、宿泊された宿でサーバスのことを知り、トラベラー会員として8月に入会されました。薬膳に興味・関心がおありで、早速台湾へのサーバス旅行に挑戦されるなど意欲的な方です。旅のレポートも楽しみです。

### T.A.さん

広島県安芸郡にお住まいです。中学校の英語の先生をされており、お忙しい方ですが、国際交流に積極的に関わりたいとホスト会員として9月に入会されました。お子さん方も一緒に、家族ぐるみで交流を楽しみたいと考えておられます。

### M.R.さん

広島市安佐南区にお住まいです。JICAの海外青年協力隊員として、特技である柔道をアフリカのジンバブエで教えておられました。現在は大学院でスポーツを通じた国際開発について研究されています。世界中の人々と交流したいと11月にホスト会員として入会され、早速LOIも申請されました。

### 中国四国支部会員数(2025/1/31 現在)

広島県	12名	愛媛県	2名
岡山県	2名(内家族会員1名)		
鳥取県	1名	山口県	1名

計18名

### 3 ドイツ親善の旅

#### 日本・ドイツサーバス国際親善の旅の感想

I. H.

今回の旅の期間は2024年5月25日～6月7日(2週間)で、参加者は総数10名(内訳:男2名・女8名)全員が65歳以上の高齢者で、フランクフルト、シュツガルト、ミュンヘン、ニュウルンベルク、ライプツィヒ、ベルリンの順でホームステイをした。

1 グループと別行動したのは、フランクフルト、ミュンヘンであった。

ステイ先のこの2か所には、偶然、ウクライナから避難した人が生活。各家庭はボランティアで対応しており、ウクライナ問題を身近に感じた。

フランクフルトでは1名成人女性、ミュンヘンでは1家族(母親と子供3人)という時代を反映したステイ先となった。

2 個人的な関心事で長きにわたり、ホームステイをしながら、ジェンダー平等と環境問題などに注目し、ライフスタイルの違いを感じる旅をしてきた。

ジェンダー平等に注目したのは、2006年頃からである。

ジェンダー平等について(「Global Gender Gap Report」(世界男女格差報告書)) WEF(World Economy Forum)が毎年149か国の順位を決めている。(経済・政治・教育・健康)を基準に数値化している。(G7で日本は最下位)「政治」、「経済」の分野で女性の遅れが目立つ。2023年の日本の順位は125位(前年116位)で、ドイツは6位、アイスランドはこの15年常に1位、2024年の結果はドイツ7位、日本118位と大きな差がある。家庭で、この結果がどのように反映されているかに関心があり、この十数年ステイの機会があるたびにその暮らし方に注目。尚、この数値が出る前は、個人的に家事の役割分担に注目してきた。日本は常に100番台、ドイツは6位、7位と大きな差がある中で、特に家事の中でも食に関して、男女の意識の違いを大きく感じた。

#### ジェンダーの格差に関する調査(2024年)

1位	アイスランド	36位	カナダ
2位	フィンランド	43位	アメリカ
3位	ノルウェー	87位	イタリア
7位	ドイツ	94位	韓国
14位	イギリス	106位	中国
22位	フランス	118位	日本

世界経済フォーラム「Global Gender Gap 2024」より作成

#### 3 環境問題

(1)再生エネルギー:2011年の福島大地震の原子力発電大事故からドイツの原子力発電の停止を決断し、再エネへの転換を目指し、2030年を目途に総電力消費の65%をまかなうことを法制化。

4R(Refuse、Reduce、Reuse、Recycle)をステイ先の家庭では、主にラップ不使用・生ごみをコンポストに利用などを実施しているのが印象に残った。

(2)自然環境:訪問したドイツのイメージは日本の都会と違い、居住地の近くに実に緑が多く菩提樹他、大木が街の中に多く見られた。

- ・自宅の屋上でラズベリーやイチゴなどを栽培
- ・雨水を利用した池や植栽
- ・ガーデニングの一環として、各地に昆虫を飼育する巣箱
- ・自宅近くで、ガーデニング、実りある樹木、りんご、サクランボ、イチジクや季節の花々やハーブなど
- ・ビオトープとして、自然と昆虫など生物と共生が普通



日本の江戸時代は環境にもっとも優しい生活であるといわれているが、その心をドイツで垣間見たように思った。

今回の旅は、私にとって初めてのサーバスの旅であったが、この旅を通じ、実に多くのことを学ぶことができ、意義のある旅となった。

## 4 「ケニア・ジンバブエ理解講座」報告

U.S.

「異文化（ケニア・ジンバブエ）理解講座」は他団体による企画でした。講師の M.R さんにお会いしました時、「日本サーバス」についてのパンフレットを差し上げ、ご説明しましたところ、早速ご入会していただくこととなりました。折角の機会なので、「日本サーバス・中国四国支部」会員の方々も講座にご招待されては如何ですかというお声掛けで、ジョイントの「異文化理解講座」開催となりました。

### 1 講師（M.R.さん）のプロフィール

- (1) 1998 年生まれで広島県ご出身の広島大学大学院生
- (2) 青年海外協力隊の 2022 年度 1 次隊、柔道指導員として  
2022 年 7 月～2023 年 7 月までジンバブエに滞在  
ジンバブエの柔道協会に所属し、在ジンバブエ人大使、  
富裕層、貧困層や、難民キャンプなどで指導を行う。
- (3) その後、ジンバブエでの経験を活かし、2024 年 4 月より  
広島大学大学院に進学、「スポーツと開発」という分野の  
研究を行っている。



### 2 ケニア・ジンバブエ理解講座（Zoom オンライン）

- (1) 参加者：10 名（サーバス会員 5 名）
- (2) 日 時：11 月 13 日（水）午後 8 時～午後 9 時 30 分（午後 10 時過ぎ終了）
- (3) 内 容
  - ・ アフリカに関する一般的な知識：国の数・面積・  
人口・宗教・言語・食事・平均年齢・気温・経済など
  - ・ ケニア・マサイ族とのホームステイにインパクトあり！
  - ・ マサイ族の一日：乳搾り→牛乳を飲む→遊牧
  - ・ ケニア・ナイロビにある最大スラム街(キベラスラム)の  
問題
  - ・ ジンバブエの内情：ムガベ政策で、白人の農地を没収  
し、原住民に与えたが経営、栽培、生産知識もなく、ハ  
イパーインフレが発生し、100 兆ジンバブエドル=0.3  
日本円となり、2015 年廃止



### 3 参加者の感想（一部を掲載）

- (1) 今、当たり前のように電気、水、お風呂やトイレにも困らない暮らしをしていますが、日本にもそうではない時代があって今があるということを考えさせられました。
- (2) 「なぜ Africa は発展しないのだろう？」との課題は、先進国に生きる私たちの課題でもある。
- (3) 分かりやすくまとめていただき、アフリカを身近に感じ、とても学びがある充実した時間でした。

## 5 トラベラー会員活動報告

### 台湾冒険記～台湾の人達の人情に触れて～

Y. M.

日時 2024年12月13日～12月29日

昨年8月にトラベラー会員として入会し初めてのサーバス旅行。台湾を選んだ理由は、薬膳を学んでいるので台湾の歴史、食文化と暮らしを知りたかったからです。今までツアーで海外を旅したことはありましたが、外国語がほとんど話せない私は初めての個人海外旅に不安もあり、数日のデイホストとホスト1組お願いし台北のみでと考えていました。そんな中、日本に住んでいた経験もあり日本語の先生をされていたことがあるデイホストのS. C.さんとの出会いをきっかけに私の台湾冒険旅が始まりました。

「M、古都の台南へ行きませんか？サーバス会員のM・Nさんがホストしてくれますよ」の一言から始まり、他にデイホストをお願いしていたJJさんや現地に住むサーバス会員のL. H.さん、V. I.さん、ご友人にも連絡をとり私の希望を聞きながら計画をしてくださるだけでなく、台湾滞在中の大半同行してくださいました。

台湾に到着した翌日14日、S. C.さん、L. H.さんと待ち合わせ。「Cと呼んでください」とチャーミングな笑顔で接していただき緊張がほぐれました。まずは、台北で週末のみ開催されている有機農家のファーマーズマーケットへ。南国の果物、種類豊富な野菜、台湾茶、ちまきや燻製された蒸し鶏などがおいてありとても活気がありました。台湾は、国の面積は小さいけど3,000メートル以上の山がなんと200以上もあり美味しいお茶と多品種の野菜が採れるそうです。その後、台湾のハンバーガー（刈包）や台湾スイーツの豆花を食べに老舗店に連れて行ってくださいました。L. H.さんとは翻訳アプリを使って交流し、L. H.さんが日本を訪れた際のお話やお互いが撮った日本の写真を見せ合うなど美味しい台湾の伝統食を3人で味わいながら楽しい時間を過ごしました。15日はJJさんが提案してくださった台北の北側にある自然豊かな山村地域の三芝へ。陽明山からの地下水が豊富で美味しい農産物ができそうで、畑の中にある小さな農村食堂でお話ししながら食べたご飯とても美味しかったです。



17日にはJJさんのご縁で薬膳料理の先生にお会いできることになり、台北北東の港町、基隆へ。先生の「薬膳の理想は、簡単、便利、安い」の3つ」という言葉は固定概念で頭ガチガチだった私をほぐしてくれました。その後は、V. I.さんが迎えに来てくださり「台湾のブラーノ島（ベネツィア）」と言われている漁港に連れて行ってくださいました。美しい建物群が眺められるカフェで、介護事情のお話しを聞き日本と同じ社会問題を抱えていると感じました。



19日から台湾新幹線に乗り台南へ出発。まずは、台中で途中下車しS.C.の大学時代の同級生おふたりが日本統治時代の建物が多く残る台中市内の歴史を説明しながら案内してくださいました。

それから台南のさらに南にある屏東へ。小さな有機農場を営んでいるS.C.のご友人夫婦のお家にホームステイ。奥様は客家（中国大陸の北部）の出身で、農園で採れたての野菜を使った客家料理を作ってください感激しました。旦那様はお酒好きで日本旅行した時に買った日本酒が気に入っていると朗らかに話してくださいました。翻訳アプリも交えながら楽しく交流しました。とても温かいご夫婦でお別れするのが少し寂しかったです。



キュウお手製の  
グアバジュース



20日からいよいよ台南へ。途中、台湾第三の都市・高雄で降りてS.C.の大学時代からの親友の方と合流。日本企業の台湾営業所に勤務されていた経験やご家族のことなどお話しをお聞きすることができました。その夜、台南へ到着。夜分遅い時間だったにもかかわらずM-Nさんご夫婦は私達を温かく迎え入れてくださいました。翌日は、台南北部・嘉義市での音楽パレードに連れていってください満喫。その夜は、お礼に日本から持参した自家製味噌を使って味噌汁を作り、台北のデイホストJJさんも訪れ、冬至を祝いました。JJさんの活動のお話しを中心に遅くまで盛り上がり終始笑顔が絶えないひとときを過ごしました。



冬至は家族で団子を  
食べて幸福を祈る



22日は台南の中心地域へ。最初に、日本統治時代に台南州庁として建設された建物「国立台湾文学館」を訪れました。台湾は他民族国家で複雑な歴史があると知り、台湾の人達のおおらかで人情深い人柄と重なって感銘を受けました。その後、オランダ統治時代の建物「赤崁楼」や台南の下町を案内して下さり、皆さんと食べる台南ならではの味は感動するほど「好吃（ハオチー）」でした。台南中心地から戻ると、旦那様が家庭料理を作ってくださっていて優しい味で体にしみ渡りました。食後にM・Nさんから「台湾の飲食指南」食事の推奨摂取量が描かれた風呂敷をいただき、風呂敷に「Mへ、第二の人生を応援しています」と皆さんがサインを書いてくださいました。これには心の底から感動しました。一生の宝物で心の支えです。



23日の朝、台北行きの新幹線へ。台北・北投でS.C.が日本語を教えていた生徒さんと薬膳鍋を食べに行くからと誘ってくださいました。台湾では日本のドラマも放送されているようで、日本語で楽しく交流しました。

25日～28日までは、台北のホストM-Fさんにお世話になりました。翻訳アプリとWhatsAppを使って無事にお会いできひと安心。イルミネーションを見に周辺の散策へ。「翻訳アプリでの会話は初めてよ」と笑いながら接して下さり、「ありのままで自由でいい」「間違いを恐れずにできる限り多く話すようにしてください」という言葉は心に響きました。お礼に、翌日の夕食は味噌汁、おにぎり、味噌入り卵焼きを作り、M-Fさんが作ってくださった家庭料理と一緒に、これまでの旅や人生の話、台湾有事のことなど幅広く語りました。

最終日の朝、M-Fさんの家を出発し台湾東北部・宜蘭にある礁溪温泉でS.C.と待ち合わせ。自然豊かな森林風呂で素晴らしい旅となったお礼とお互いの人生についてもゆっくりと語りました。



台湾での約2週間の滞在、台湾の歴史と北・中・南の地域の魅力を知り一生忘れられないともとても幸せで楽しい充実した旅となりました。一番印象に残ったのは、台湾の人達のおおらかな優しさです。

最後に、受け入れてくださった台湾の皆様、トラベラーとして国際交流を可能にしてくれたサーバス中国四国支部、元気で送り出してくれた母にも感謝しています。おかげ様で、特別な思い出をつくることができました。

## 6 トラベラー受け入れ報告

### 宮島巡り

S.Y.

日 時 2024年9月25日  
トラベラー D & L (アメリカ)

まだ暑い9月25日に、アメリカ カリフォルニアのご夫婦を夫と宮島に案内しました。鳥居のところまで行って、ブラブラと歩き、大聖院を見て回り、お昼におそばをご馳走していただきました。

ハイキング好きなご夫婦は、弥山に登ると言われ、私たちは子供が学校から帰る時間でしたので、宮島でお別れしました。アメリカ人らしく、明るいご夫婦で、またお会いしたいと思います。楽しい時間でした。



### L. S. さんを Day Host して

H. T.

日 時 2024年9月25日  
トラベラー L. S. (ドイツ)

2024年6月末にL. S. さんから Home stay 依頼の mail が来た。9月後半に、九州を拠点として滞在し、広島にも来たい、と。すぐに受け入れの返事を出した。林は、少し腰が曲がっており、歩くのが鈍いので、街を案内することはできないが、宿泊ならOK、と。9月初めにL さんから、reconfirm の mail が来た。林は、この夏の猛暑で、他の高齢者と同じように、自分もひどく弱った、と返事を出した。又、林が車を運転しない事、客間は flooring なので、来客が floor の上に琉球畳をセットして、布団の上げ下ろしも自分でしてほしい、と。L さんの返事に、I prefer not staying と書いてあった。林の条件が、L さんの stay 断念を決定付けたの？自分で bed making することを拒んだの？ 後日分かった事だが、他支部 Servas の友人で、阿品駅の近くに住んでいる方のお宅に滞在した由。納得。



ANA hotel 1階のFruitier で、dining time を持ちましょう、と今度は合意に至った。約束の時間、正午きっかりに彼女は現れた。ゆったりした座席で、話が弾んだ。林が話した事：広島、長崎の被爆だけでなく、ビキニ環礁でマグロ漁をしていた静岡県・焼津や四国・室戸の漁業者達の被爆、水爆実験場近くの島国の人たちの被爆等にも目を向ける必要がある、と伝えた。3歳の時に、入市被爆した時のかすかな記憶もお話した。

L さんが話した事：ブラジルで生まれて、大学で Chemical Engineering を学び、ドイツで、Business Administration を学んだ。ドイツ人の男性と結婚して、今、ドイツの製薬会社に働いている。2人で世界中を旅行しているなど。



## ヨーロッパと日本で重なる家族の記憶－戦禍を生き延びた少女ふたり－

K. T.

日時：令和6年9月16～18日（日～火）2泊3日

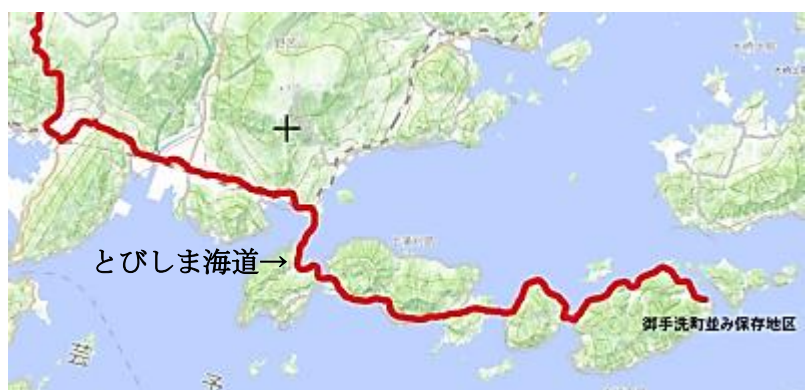
トラベラー：P. C.（スイス）

私がこれまで受け入れたトラベラーの方は、おおよそ年齢が私と重なる65歳前後の方が多く、2日間の交流の中でそれぞれの人生のことを語らうことは大変面白いものでした。そのうちのおひとりでスイスから来られたPさんとのこととお話します。彼の話の中で最も印象に残っているのは、彼の家族の歴史の話でした。今住むスイスにやってきたのは母の時代なのだというのです。彼女は難民（Refugee）だったというのです。当時ヨーロッパ全域がナチスドイツを中心とする対立状況の中、人々が巻き込まれた戦禍というものを想像することができました。まるで映画「サウンドオブミュージック」のように、迫害から逃れてスイスへと渡ったお母さまの姿が思い浮かびました。スイスは永世中立国として有名ですが、第一次、第二次世界大戦で大きな危機を迎え、いずれも武装中立を守ることで直接的な戦火を免れたと習いました。まさに国境を挟んで、人々の生死を分けた場所だったのかもしれませんが、Pさんはまだ幼かった母が体験したあの時代のことを、我々日本人が経験した太平洋戦争や被爆の体験と重ね合わせて、シンパシーを感じてくれたのかもしれませんが。私の母は94歳になりましたが、広島での被爆者です。広島を訪れるトラベラーは必ず原爆資料館を訪れるので、そこでの内容と重なり、80年前、双方の家族が経験した悲しい歴史について語り合うことは大きな意味を持っています。ヨーロッパから来られた方とはこんな共通の話ができるのだと改めて知ることができました。

さて、山岳地帯にあるスイスのからのPさんにぜひ瀬戸内海の海の風景をお見せしたいと、「とびしま海道」をドライブしました。古い港町の風情をのこす「御手洗」までいくつかの橋を渡って、車を走らせました。9月中旬、残暑厳しい時期だったこともあって、彼は日本の暑さに参っていましたが、町並み保存地区に暮らす地の人に出会うことができいい思い出になりました。そしてスイスに比べてずいぶん物価が安いと言っていました。なんせスイスの一人当たりGNIは約8万ドル（人口870万人）、日本は約4万ドル（人口1億2千万人）ですもの。日本の物価はスイスの2分の1の安さだということになります。

会話は主に英語で成立しましたが、スイスの北西部ジュラ地方のヌーシャルテル(Neuchatel)湖に近い町から来られたPさんはフランス語が母語で、時々翻訳ソフト「ポケトーク」が活躍しました。大変便利に同時通訳してくれます。そこで、近年日本ではスイスといえば「安楽死」できる国というニュースが話題になったという話をしました。彼は「なぜそんなことを聞くの？」とその質問自体に驚いた様子でしたが、我々日本人が直面する超高齢社会が抱える問題の一つだと話しました。彼によると、「安楽死」は厳しい管理の下で行われているという話でした。亡くなられた後には警察などの公の機関が状況把握をして、その手続きや管理はしっかりしているということです。

彼の話の中で、もう一つ印象深かったのは、息子さんのことでした。息子さんとの間にわだかまりがあって、その関係性に苦労してきたということです。それは自分にも原因があるのかもしれない。ご自身がADHD(多動児)の傾向があってよく忘れ物をしたりする。でもその一方で絵が好きでその才能を見出してくれた恩師のおかげで、今デザイン関係の仕事をしているのだということ打ち明けてくれました。ほぼ同世代ということもあって、人生の多くの悲哀を乗り越えてこられた彼の話には、同時代を生きてきた私への思いやりが込められていました。まだ現役の仕事をしているとはいえ、人生も終盤に差し掛かってきた我々が、その人生を語りあい互いに共感しあえることは大きな喜びで、励みになりました。



## 7 第3回日本サーバス中国四国支部定例総会報告

支部長 T.M.

書記 U.S.

日時：2024年12月8日（日）14時～16時

場所：オンラインミーティング 議長：S.Y. 書記：U

出席者：8名/17名（中国四国支部の会員）委任状：4名

次第：

### 1 新会員紹介（支部長）

- ・Y.M.さん（トラベラー会員、愛媛県伊予市、8月入会）
- ・T.A.さん（ホスト会員、広島県安芸郡、9月入会）
- ・M.R.さん（ホスト会員、広島市、11月入会）

### 2 会員自己紹介

### 3 連絡事項（支部長）

- ・お知らせ：休会会員（K.K. -10月～） 退会会員（M.T. -11月退会）
- ・11月27日の拡大委員会報告

(1)2025年3月京都でのユース主催イベントについて

－竹中プロジェクトから下見費用や準備に補助金を支出することが全役員賛成で可決

(2)本部財政逼迫状況における議案が本部会計より提案

－国際サーバスへの支出金がSOL導入で多くなり、逼迫している。

〔現在の収入源は支部拠出金（860円×会員数）＋LOI収入で運営〕

－当面、各支部に残っている繰越金を寄付の形で提出してもらい、少なくなると、年会費を3000円に値上げし、860円の拠出金を1000円か1500円に値上げすることを検討していくかもしれない。中国四国支部は繰越金が少ないので、寄付しなくてよい。

(3)2027年度営業部Aの担当支部については本部が交渉中

－中国四国支部の引き受けは人数的に難しいと回答 他支部との合同に関しても難しいと回答

### 4 議題

- ・2024年度活動報告（支部長、企画、面接、広報、ホストコーディネーター）→ 全員賛成で承認
- ・2024年度会計途中報告 → 全員賛成で承認
- ・2025年度活動計画（支部長）→ 全員賛成で承認
- ・支部会報の回数について（支部長）  
－現広報係からは年2回の方が発行する負担が少ないとの意見があったので、  
2025年度は年2回発行する。 今後は広報担当者の裁量に任せる。1回でも2回でも負担のない回数でよい。

### 5 その他

- ・第2回会報発行計画（広報係 S.S.）  
－原稿依頼は12月20日（締切日 1月20日）
- ・新役員（2025-2026）について（支部長）→ 全員賛成で承認  
支部長：T.M. 副支部長：S.Y. 会計：K.T. 会計監査：S.S.  
ホストコーディネーター：U.T.・V.T.（補佐） 面接担当：Y.N.  
広報係：N.M.・I.H.（補佐） ユース担当：M.R.・T.A.（補佐）  
書記：輪番制

## 8 編集後記

広報担当 N.M.

“Smile and the world will smile with you.” これはかつてサーバストラベラーとして訪ねたカリフォルニア州サンタモニカのホスト宅で目にしたメッセージである。キッチンにさりげなく貼られた手書きのメッセージ。夕食の後片付けをしていた私の心の奥深くに刻まれ、後に私の「座右の銘」となった。

拳を振り上げれば、拳が返ってくる。笑顔を向ければ、笑顔が返ってくる。世界が分断と混迷の中にある今だからこそ、たとえほんの数日間・数時間だけの家族であっても、笑顔のふれあいが世界を変える力になると信じている。

世界平和を希求する支部会員の地道な活動に支えられ、本年度第2号支部会報を発行できたことに感謝しています。とりわけご多忙の中ご寄稿くださいました執筆者の皆様に心からお礼を申し上げます。

また、Website掲載や添削・助言の労を賜りました本部のご担当の皆様に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。



庭のモクレン